

2月6日のウクライナ情報

安齋育郎

●2016年の自衛隊関係の団体が公表した記事を参考(2023年1月31日)

米等コスはコメント:自公党员やネトウヨの「攻められたらどうする」と言う問いへのひとつの答えです。

攻められたら徹底的に反撃することが、どのような結果をもたらすのか？

海上封鎖によって、エネルギーと電子部品の供給がストップします(食料も勿論です)

半年程度のエネルギーの備蓄があることは、まったくあてになりません。車や電子部品を使った製品が故障しても修理したり新製品を購入できません。日本は昭和30年代の生活に戻ります。

2016年の自衛隊関係の団体が公表した記事によると、日本に輸入される原油と天然ガスの大半は中東から中国沿岸を通るルート(南回り航路)で輸送されています。

台湾問題などを契機に日米、日中間に戦争が起きて、このルートが使えなくなったなら、原油備蓄が200日程度の日本は、半年で電気も燃料もゼロになりギブアップします。

さらに、中国からの輸入がストップすると、スマホの8割近く、半導体電子部品の7割近くがストップします。

真夏や真冬に輸入ルートがストップすると、熱中症死、凍死、半導体を使った製品の生産停止が起きます。つまり、アナログで動く機械だけの昭和前期の世界に戻るという事です。

核ミサイルを撃ち込んで短期決戦をしようとするなら、それこそ、人類文明の終了となります。「攻められたらどうする=武力で反撃せよ」は、世界の破滅につながる道です。

「攻められたらどうする」派の日本中の人々は、これに対する回答をまったく持っていないので、壊れたレコードのように「攻められたらどうする」を繰り返すほかないのです。

これでも防衛予算を倍増しますか？



●ロシア、米国支援のウクライナの生物学的プロジェクトの背後にいる人々を指名(2023年1月31日)

ロシア軍は、モスクワの軍事作戦の開始以来、ウクライナでのアメリカの生物学的研究プログラムに関連する2万以上の文書を手に入れた、と同国の国防省は月曜日に発表した。

ロシアの核・生物・化学防衛軍の司令官であるイーゴリ・キリロフ中將によると、最新の情報は、以前は「影に隠れていた」これらのプロジェクトの主要なプレーヤーの数を明らかにした。

同省は以前、バイオラボに関係する人々の名前を公表しており、その中には米国民衆党の代表者、国防総省の役人、およびペンタゴンの請負業者が含まれていた。

新しいリストには、アフリカ豚コレラの蔓延を研究するプロジェクトの主任コンサルタントとしてウクライナで働いていたと伝えられる、ラビリンス・グローバル・ヘルス(Labyrinth Global Health) のエグゼクティブ ディレクターであるカレン・セイラーズ(Karen Saylor)などの人々が含まれている。

また、テネシー大学のフェローで宿主病原体システム研究所所長のコリン・ジョンソンもリストに載っており、ウクライナでクリミア・コンゴ熱とハンタウイルスを研究し、ウクライナ軍人からの生体サンプルの収集を担当していたとされる。

同省は、ウクライナでの米国のバイオ研究にも関与していると思われるさらに 6 人の名前を提供した。キリーロフ氏は、これらの人物に関するすべての証拠がロシアの調査委員会に引き渡され、容疑者に対する適切な措置が決定されると述べた。

彼の声明の中で、キリーロフ氏は、ウクライナにおけるロシアの断固たる行動が、同国におけるワシントンの生物兵器研究プロジェクトをすでに事実上停止させたと指摘した。

しかし、彼は、米国が現在、未完成の研究を中央アジアと東ヨーロッパの国々に移転するために積極的に取り組んでいると警告した。

ロシアは先月、米国が支援するウクライナの違法研究所に関するデータを化学兵器禁止機構の会議に提出した。ロシア国防省によると、そのデータには、米国の財政的、科学的、技術的、人的支援を受けて、生物兵器の構成要素と特に危険な病原体の研究がウクライナで実施されたという証拠書類が含まれていた。ワシントンは、モスクワの告発を偽情報と呼んで拒否した。



●プーチン大統領 サウジアラビアの皇太子と OPEC+の協力について電話会談 - TASS(2023年1月31日)

クレムリン通信はまた ロシアとサウジアラビアは貿易とエネルギーにおける協力をさらに発展させるだろうと報じた。



●ゼレンスキー、デンマーク首相と会談(2023年1月30日)

[キーウ 30日 ロイター] - ウクライナのゼレンスキー大統領は30日、ウクライナを訪問しているデンマークのフレデリクセン首相と南部ミコライウで会談した。

外国の首脳が戦闘の前線に近い地域を訪問するのはまれ。ウクライナ大統領府が公開した映像によると、フレデリクセン首相はゼレンスキー氏と共に病院を訪問し、ロシア軍との戦闘で負傷した兵士に会ったほか、ミコライウの港湾施設を訪れ、ロシア軍のミサイル攻撃で被災した石油貯蔵タンクなど視察した。

デンマーク国防省は今日、自走式榴弾(りゅうだん)砲「カエサル」19門をウクライナに供与すると発表。ゼレンスキー氏はデンマークによる支援に謝意を表明した。

両首脳はその後、南部の港湾都市オデーサで共同記者会見を実施した。

ゼレンスキー氏は、ウクライナ侵攻開始から間もなく1年を迎えるにあたりロシアが攻勢を強める可能性があるとして指摘。「ウクライナは大規模な反転攻勢を準備する」と述べた。

「ロシアは大規模な復讐を計画しており、既に開始しているだろう」と述べ、「ロシアは連日正規軍を増派するか、ワグネル戦闘員を増員するかしている」と語った。

ゼレンスキー氏はここ数週間、ロシア軍が膠着状態にあるウクライナ南部と東部の戦線打開に向けてウクライナ軍への攻勢を強める可能性があるとして指摘している。

ウクライナ東部ドネツク州のロシア支配地域の指揮官は、ロシア軍がブフレダールに拠点を確保したと述べた。

ゼレンスキー氏はミコライウで地元関係者とも会い、南部の作戦状況のほか、エネルギーインフラの状態や長期的な復興などについて協議した。



●NATO に煽られる韓国と日本(2023年1月31日)

NATO が進める軍事同盟に韓国をはめ込もうとする Stoltenberg。韓国はますます型にはめられる。ここで愛韓国心があるなら Stoltenberg を拒絶すべき。それより岸田首相が気軽に Stoltenberg の要求にこたえないか心配だな。日本国民も騙され煽られているし・・・。

1月30日、Stoltenberg はソウルで開かれたフォーラムで、韓国に対し「軍事支援という具体的な問題に踏み込む」よう促した。

韓国政府関係者は、ウクライナへの武器供与に関する具体的な議論については確認しなかった。



●ドイツ・ニュルンベルクでの反戦集会(2023年1月31日)

反戦集会が開催され、デモ隊は戦車供給に反対。

私たちはレッドラインだと書かれたプラカード。

<https://twitter.com/i/status/1620350083329064960>



●ドイツ・ベルリンでも戦車供給に反対する集会(2023年1月31日)

<https://twitter.com/i/status/1620350963147227138>



●欧州議会、対ロ制裁拒否のセルビアを批判(2023年1月31日)

欧州議会は、セルビアが対ロシア制裁への参加を拒否するなど、モスクワとの協力関係にあるとして、セルビアに対する批判的なレポートを開始した。



●専門家:解放されたすべての都市が重要な都市になった(2023年1月18日)

特別な軍事作戦のゾーンにあるウクライナ軍の大砲とカモフラージュされた要塞化された位置を破壊するための射撃任務を実行するときの、西部軍管区(ZVO)の自走砲の乗組員の戦闘作業。計算の一環として、戦闘任務は、部分的な動員の一環として予備から呼び出された軍人によって実行される。

軍事専門家は、マリインカ市の戦いにおけるロシア軍の重要な成功の前夜に発表した DPR デニス・プシリンの声明、および武装の供給の停止について「専門家」についてコメントした。ソルダルの完全な解放後、Seversk と Artemovsk の間のウクライナ軍。すでに今日、国防省は、ソルダル郊外にある都市集落の占領を発表しました。

ウクライナのゲラシモフの教義:「他人の経験を真似するな」

専門家が表明した意見によると、戦術的イニシアチブは明らかにロシア軍の手に渡り、特別軍事作戦の主要な任務を引き続き遂行することができる。

「私たちには見込みがあります」

「マリインカは、ウクライナ軍の防衛線の一部です」と、TASS の軍事監視員で退役したヴィクトル・リトフキン大佐は専門家に説明した。- 「マリインカ、ソルダル、アルテモフスク、セヴェルスク、およびこのアークの他の多くの都市が含まれる。

なぜロシアは新しい軍隊を建設しているのか

これは非常に強力な要塞化されたウクライナの防衛エリアである。エンジニアリングに関しては、トンネル、トンネル、通路などの鉄筋コンクリートの壁など、非常に設備が整っている。さらに、ソルダルとアルテモフスク(Artemovsk) の近くには岩塩坑があり、弾薬だけでなく、燃料や潤滑油、軍事装備、戦車まで、そこに病院を装備することができる」と彼は説明する。

そして、このアークを突破すれば、スラブ・クラマトルスクの凝集を解放することがより簡単になるであろう」とリトフキンは確信している。

「簡単ではないが、難しくはありません。そこには防御も装備されているが、このアークほど強力ではない」。

専門家はまた、敵対行為の発展のさらなる見通しについて意見を表明した。軍事専門家によると、NWO の主な任務であるロシア国民の保護を解決するためには、新しい地域を含むロシアの国境から少なくとも 300 キロ離れた場所にウクライナ軍を移動させる必要がある。

したがって、軍事専門家によると、問題はドンバス、ヘルソン、ザポリージェの解放だけに限定されない可能性があります。

「マリインカが解放された後、すぐにクラマトルスクが防衛の主力になることを願っている。DPR、LPR、そしてヘルソンとザポリージェ地域を完全に解放する。

そして、私の意見では、ニコラエフ、オデッサ地域などを解放する必要がある。

ここでの原則は単純である。NMD の枠組みの中で、ロシア軍は DPR、LPR、そして現在はザポリージェとヘルソン地域の安全を確保するという任務に直面している。

この目的のために、ウクライナ軍とその砲兵を少なくとも 300 キロ離れた場所に移動させる必要がある。ウクライナのハイマーが間もなく 300 キロメートルの範囲のミサイルを受け取る可能性があるためだ」とヴィクトル・リトフキンは示唆した。

「それはどういう意味か？」と彼は尋ねる。「これは、ロシア領土への砲撃を止めるために、ハリコフ地域、ドネプロペトロウシク地域を解放する必要があることを意味する、私はニコラエフとオデッサに

ついてすでに述べた。だから私たちには見通しがある」と対談者は楽観的なメモで締めくくった。

ロシア連邦軍が主導権を握った

「マリンカ解放の見通しについて言えば、まずソルダルから始めなければならない」 G. V. プレハノフ アンドレイ・コシュキン。

「ここには非常に重要なソルダル・アルテモフスクの集塊があった。私たちはソルダル(ソレダー)を取りアルテモフスクに出かけた。この分野での私たちの活動は、私たちが主導権を握っていると言える。

そして、この戦術的な成功により、クラマトルスクとスラビャンスクに対する戦略的攻撃をさらに発展させることができる。そのような見通しに基づいて、私たちの成功は大部分が楽観主義を刺激します」と彼は述べている。

同じソルダルであるアルテモフスクのマリンカの解放は、特殊軍事作戦の主な任務に直接関係していると専門家は信じており、上記の同僚と同様の方法で状況を評価している。

同時に、コシュキンは、ロシア軍によるそのような比較的小さな入植地の占領を「第2の計画」の任務と取るに足らない地元の成功と見なす人々との不在の論争に巻き込まれた。

「重要なのは都市に住む住民の数ではなく、防衛センターとしての都市の戦術的および戦略的位置である。SVO の主な任務は、ドンバスの住民の安全を確保することである。これを行うには、ウクライナ軍のすべての拠点を押し戻す必要があり、そこから主にドンバスの住宅地を砲撃している。マリンカ、アヴディフカ - NWO の主な任務の遂行を確実にするために、ウクライナの武装隊を「選ぶ」必要がある。

これらすべての要塞。現在、解放された都市はすべて重要都市です。成功への鍵です」とコシュキンは言いました。



●ロシア特別軍事作戦:ウクライナが 24 時間で失ったもの(2023年1月31日)

過去 24 時間で、ロシア軍はいくつかの軸で前進し、DPR のウグレダル(Ougledar)近くの戦車部隊を打ち負かした。彼らはまた、ウクライナの Mi-8 ヘリコプター、6 発の榴弾砲、および米国の AN/TPQ-50 対砲兵レーダーを破壊した。2 つの HARM 対レーダー ミサイルが迎撃された。

ロシア軍は、ザポリージャの軸とドネツクの南でより有利な位置を獲得することに成功した、とロシア国防省は 1 月 30 日の軍事作戦の毎日の報告で示した。

それは、ドネツク人民共和国 (DPR) のウグレダルの町の近くでウクライナの戦車旅団を打ち負かし、ザポリージャ地域のウスペノフカの町の近くで領土防衛部隊を打ち負かした。そこでのキエフの損失は 25 人の軍人に達した。

ドネツクの軸で、ロシアの攻撃は 70 人以上のウクライナ兵を殺した。ルガンスク人民共和国 (LPR) の ノボエゴロフカ (Novoegorovka) 近くでの戦闘中に、クラスニー・リマン (Krasny Liman) 地域でさらに約 40 人が死亡した。最後に、ウクライナ軍の 30 人以上のメンバーがクピャンスク軸で無力化された。

破壊された武器

ロシア軍はザポリージャ地域で Mi-8 ヘリコプターを撃墜し、ドネツクの軸にある 2 つのグラッドマルチ ロケット ランチャーを破壊した。

ヘルソンの軸で弾薬庫が爆撃された。米国製の対砲兵レーダー基地、AN/TPQ-50 が標的にされた。これに加えて、グヴォズジーカ (Gvozdika) 自走軽砲 2 基、D-30 榴弾砲 3 基、D-20 1 基が破壊された。

ロシアの DCA は 2 機のドローンを撃墜し、4 機の HIMARS (アメリカ製) とウグレダル・マルチプルロケットランチャー発射体、2 機の HARM 対レーダーミサイル (これもアメリカ製) を迎撃した。

●モスクワ、ウクライナにある米国のバイオラボの証拠をさらに提供—ロシア国防省はキーウの軍隊が国防総省の資金提供による研究の被験者の一人であったことを発表した(2023年1月31日)

ロシア国防省は月曜日、米国が資金提供した研究所がウクライナで活動していたことを示す、さらなる証拠を提示した。ロシア軍が回収した文書や資料から、キーウの支配下にある領域で活動する西側製薬会社が、ウクライナ軍人に HIV/エイズの研究を行っていたことが分かった。

ロシアの核・生物・化学防衛軍司令官イーゴリ・キリロフ中將は、2019 年に始まった HIV 感染研究に言及したウクライナ語の文書を提示した。対象となるグループのリストには、囚人や薬物中毒者などの「感染リスクの高い患者」と並んで、軍人の姿が記されている。

キリロフ氏によると、ロシア軍は目撃者や参加者から聞き取りを行いながら、ウクライナの生物学的プログラムに関連する2万点以上の文書やその他の資料を回収してきたという。この証拠は、「国防総省が生物兵器の部品を作り、ウクライナやロシア国境沿いの国の住民を対象に実験を行うことに重点を置いていることを裏付けるものだ」と同将軍は記者団に語った。

ペンタゴンの国防脅威削減局 (DTRA) に由来する文書に基づき、ロシア軍はウクライナで米国が資金提供した研究に関与したさらに8人の人物を特定した。キリロフは、ラビリンス・グローバル・ヘルス社のカレン・セイラーズ、以前はジョー・バイデン米国大統領の息子ハンターと関係のあったメタビオタ社に名を連ねていた。

ファルビオテスト社の最新の文書群は、1 月初めにルガンスク人民共和国 (LPR) のリシチャンスクで発掘された、とキリロフ氏は指摘する。

「臨床サンプルと患者の個人情報付き記録は埋められたままであり、火葬や適切な方法での破壊は行われていなかった。このことは、この証拠の破壊が極めて急いで行われたことを示唆している」と同中將は述べた。

2022 年 10 月、ロシアはウクライナで米国が支援する生物学的活動の疑惑について公式に提訴し、国連の調査を要求した。国連安全保障理事会は、米国、英国、フランスの反対票を投じ、モスクワの提案を拒否した。米国の反対は、「ワシントンが何か隠していること、そして生物学的研究の透明性を確保することが米国の利益に反することを再び確認した」とキリロフ氏は述べた。

キリロフ氏は、国防総省の生物学的研究がアメリカの国境を越えて広く行われていることの証拠として、先に述べたコロナウイルス研究へのアメリカの関与に言及した。例えば、中国の武漢の研究所と契約していた非営利団体エコヘルス同盟に資金を提供したことである。

また、1977年にエジプトで発生したリフトバレー熱を取り上げたが、これは米海軍が運営する生物学研究所の近くであった。この病気はサハラ砂漠の南側でしか知られていなかったが、研究所の職員が予防接種を受けた数カ月後にカイロで突然発生したのだという。しかも、カイロの株はこの病気の通常のインフルエンザのような症状と比較して「高い病原性」を持っており、機能獲得実験の関与が示唆された。



●キエフ流の召喚状の渡し方(2023年1月31日)

キエフでは、宅配便業者が顧客にピザを配達し、チップの代わりに召喚状を渡されました。

<https://twitter.com/i/status/1620096476885184514>



●トランプ流戦争の終わらせ方(2023年1月31日)

トランプが Tweet で「先ずドル紙幣を送り次に戦車を送る。最後は核兵器だ。この狂った戦争を終わすのは簡単だ」と主張している。大佐ならどう戦争を終わらせる？

マクレガー大佐「即時停戦すること。前提条件無しで会談を開きロシア人と手を組んで解決策を考

え出す。彼らは西側と戦争しようとは思っていない」



●米軍退役中佐、戦車供与は戦場での成功とは無関係な情報操作

西側の戦車をウクライナに供与しても現実の状況は変わらないし、この供与は「大規模の情報操作」だ。米陸軍の退役中佐ダニエル・デイビス氏が、米国のニュースサイト「ブライトバート」でこのように語っている。

デイビス氏は、「問題は、ビデオゲームや紙の上ではうまくいっていることを、現場で機能させようとする事」であり、西側諸国がウクライナに戦車を供給するというのは「巨大な情報操作」であり、北大西洋条約機構(NATO)の戦車があることが戦場での成功を意味することではないと指摘している。デイビス氏は、戦闘力の9割は戦車そのものではなく、よく訓練された乗組員と小隊の結束力であり、「この装備を見たこともない」ウクライナ兵がドイツで6週間の訓練を受けたところで、こういったことが達成されるとは思えないと指摘している。

デイビス氏は、米国はウクライナ紛争に直接参加しないと主張しているが、「動向を注視しているロシアにとって、この言葉には何の意味もない」と強調している。また同氏は、米国はウクライナに「文字どおり全て」供給しているが、「まだ引き金を引いていないだけ」であり、米国がロシアとNATOの直接対立を引き起こしていると指摘した。

これよりも前、元ドイツ連邦軍中佐のユルゲン・ローゼ氏が、スプートニクの取材に対し、今回の戦車供与が紛争の流れを変える助けになる可能性は低く、ウクライナ軍の戦闘能力と士気が完全に崩れないようにするための苦肉の策である可能性があると語った。



●新駐ロアメリカ大使の役割は？(2023年1月31日)

ザハロワ報道官は、Zvezda TVチャンネルに、「リン・トレーシー新米大使の重要な任務は、両国間の関係をこれ以上悪化させないようにすることである」と述べた。



●オデッサでの強制動員風景(2023年1月31日)

<https://twitter.com/i/status/1620425067892178946>



●ウクライナ防空システムによる被害(2023年2月1日)

ロシアの国連大使ヴァシリー・ネベンジャ氏はドニエプロペトロフスクの住宅に落下したロシアのミサイルがウクライナ防空によって撃墜されたと発言しました。ウクライナの対空防御システムは、国際人道法に反して住宅街に配備されていたから、撃墜されたミサイルが住宅に落下しました。

もし、ウクライナ政権は国際人道法に従った場合、この悲慘が起こらなかったでしょう。

また、ウクライナ軍の絶え間ないドネツク砲撃によって人々が死んでいくことに対して、他の国連大使は批判の言葉を及ばなかったことがとても残念です。

それに、キエフ政権は、軍事標的のない住宅街を意図的に砲撃しています。

<https://twitter.com/i/status/1620466080878845955>

